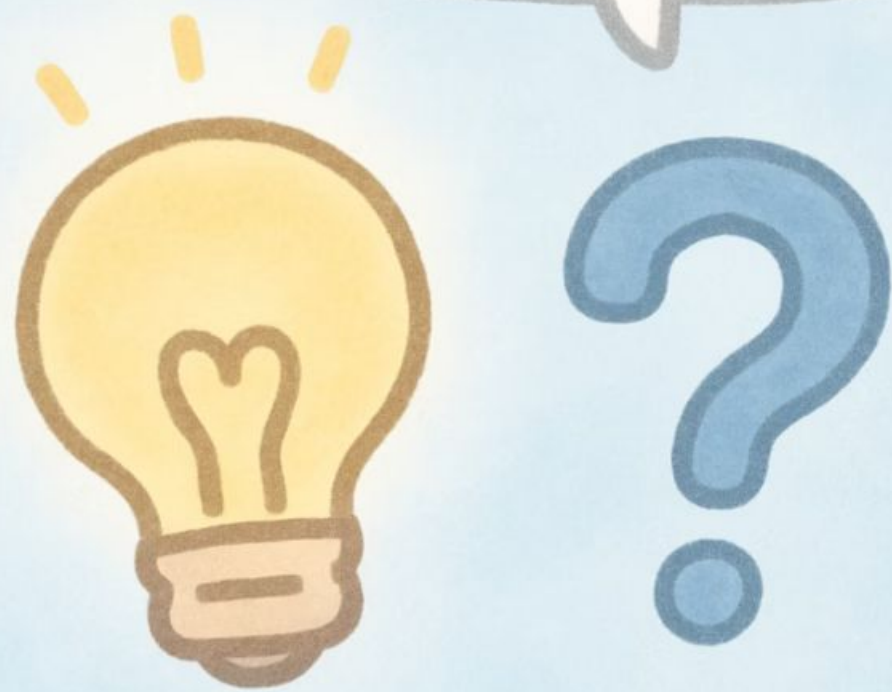




基本が
大事!

AI講座 第4回

一番心配な「個人情報」は大丈夫？安全に使うためのルール

ーパートー1 個人情報を守るために

定着採用株式会社 永田一平



前回の振り返りと今回のテーマ

前回(第3回)

1

AI(Gemini)で報告書下書き作成デモ → 「便利だけど、個人情報は大丈夫？」という声も

2

今回のテーマ

『一番心配な「個人情報」は大丈夫？安全に使うためのルール』

目標

3

AI業務活用の重要ポイントを理解し、安心してAIを活用できるようになること

個人情報、やっぱり心配ですね



結論

AIに利用者さんの大切な個人情報を入力するのは怖い...と感じるのは当然で、大切な感覚です。



私たちが扱う情報

氏名、住所、病状、家族構成など、機密性の高い個人情報に日々触れています。



守秘義務

これらの情報を外部に漏らさない「守秘義務」を負っています。



重い責任

これは仕事の根幹に関わる重い責任です。



もし情報が漏れてしまったら...

1. 利用者さんやご家族への影響

直接的な被害: 利用者さんやご家族に多大な迷惑

2. ステーションへの影響

組織への影響: ステーションの信用失墜

3. 最終的な結果

最悪の結果: 取り返しのつかない事態

だからこそ: 新しいAIというツールを使う上で、個人情報の取り扱いには最大限の注意が必要です。

DATA BREACH



AI (Gemini) のセキュリティは？

セキュリティの基本

高レベルセキュリティ

Googleのような大企業は、非常に高いレベルでセキュリティ対策を行っています。

データ保護の仕組み

技術的保護

入力情報がすぐ他人に見られたり、無断で他目的に使われたりしないよう技術で保護。

セキュリティの限界

100%ではない

ただし！ それだけで100%安全とは言えません。

私たちの役割

私たちの責任

私たち自身が「正しく使う」ことが何よりも重要です！



Googleの対策と私たちの役割

Googleの対策

- ・ データ送受信時に「暗号化」技術で盗み見防止
- ・ 保存データへの厳重な管理体制 (Gmailなどと同様)

会社によっては、よりセキュリティが強化された法人向けプラン (Google Workspaceなど) を契約している場合も。

例えるなら

銀行が頑丈な金庫や警備システムでお金を守るのと似ています。

ただし！ キャッシュカードや暗証番号の管理を怠れば危険なように、AIも使い方を間違えれば情報漏洩リスクはゼロになりません。



パート1のまとめ: 個人情報保護の重要性とAIの基本セキュリティ

守秘義務の再確認

個人情報の扱いは専門職として極めて重要であり、守秘義務があることを再確認しました。

リスク意識

万が一の漏洩リスクを常に意識する必要があります。

企業の対策

GoogleのようなAI提供企業は高いセキュリティ対策を講じていますが、それだけでは不十分です。

私たちの責任

最終的な安全は、私たち自身の「正しい使い方」にかかっています。

